秋まつり

♪…それぞれの音いろ…♪

元気な呼び声と地域の人々の笑顔が溢れた「海の子まつり」＝10月23日、海の子学園入舟祭で

港町のにぎわい再現

「みなと秋まつり」多彩な催し

「築港地区の歴史的価値や特性を再発見し、地域の魅力を発信しよう」と十月二日、「みなと秋まつり」が催されました。約一万人が来場。真夏のような日射しの下、築港地区一帯を舞台に朝から夕方まで多彩な催しが繰り広げられ、かつての〝港町の賑わい〟が再現されました。

天保山商店会では肉まん米、野菜などの百円均一サービス、港商店街ではフリーマーケット、模擬店などが行われ、親子連れなどが足を止めていました。

築港赤レンガ倉庫横では、築港高野山による初っ切りやちゃんこ振るまい、港区在住歌手・青木美香子さんのライブなどがあり、終日歓声が溢れていました。

赤レンガ倉庫横広場では倉庫見学やライブ（7面に記事）など、地区一帯ではまち歩きツアーやスタンプラリーが行われました。

このうち赤レンガ倉庫見学には「この日だけ特別にフェンス内に見られる」との形で活用したいですね」と話していました。

大勢が参加した赤レンガ倉庫の見学会（上）と、ちびっ子力士の挑戦が微笑ましかった「ふれあい相撲」

地域と溶け合い36年

笑顔あふれた「海の子まつり」

地域に開かれた施設にと毎秋催されている「海の子まつり」が十月二十三日、池島の児童養護施設「海の子学園」で行なわれました。二十五回目。

「いらっしゃい」「一個七〇円の元気な呼び声。焼きそば・綿菓子・ホッケーなど色々な屋台に参加者が吸い寄せられていきます。縁台で飲食する家族連れやグループの表情はまるで自宅にいるかのよう。三十六年間の積み重ねがこの施設をすっかり地域に溶け合わせたように感じられました。

夫婦でちゃん・こを食べていた峰村智行さん（二）・美香さん（池島）は「メチャおいしいです。十回以上来ていますが、寮の子供たちの元気な様子が分かり、地域の人たちも交え、とてもいい催しですね」と話していました。

組合と住民が一つに

港合同「交流秋まつり」盛況

「労働者と地域住民の連帯を」と十月二十四日、南安治川沿いの田中機械構内で「交流秋まつり」が催されました。三十二回目。中労組の集まりである港合同と同じもちつき実行委員が催、平和と福祉を目的に活動するNPOみなとが共催。

舞台ではバンド演奏や新婚歌手・青木美香子さんのライブなどがあり、終日歓声が溢れていました。

赤レンガ倉庫横広場では倉庫見学やライブ（7面に記事）など、地区一帯ではまち歩きツアーやスタンプラリーが行われました。

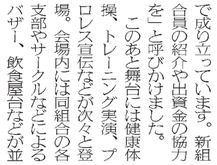
このうち赤レンガ倉庫見学には「この日だけ特別にフェンス内に見られる」との形で活用したいですね」と話していました。

大勢が参加した赤レンガ倉庫の見学会（上）と、ちびっ子力士の挑戦が微笑ましかった「ふれあい相撲」

ヘルシームード一杯

雨にも負けず「健康まつり」

「区民の健康生活を応援しよう」と毎秋開かれている「健康まつり」が今年も十月三十一日、磯路区内の体育館で開催されました。港区民センターで催された。四十二回目。主催は大阪市学校職員組合港支部（港・西・大正区の幼・小・中教職員の組合）。あいさつに立った開催一支部長（弁天在住、大正区の中学校勤務）は「良い文化に触れて子どもや教育のことを語り合いましょう」「少人数学級はみんなの願い、三十人学級を大阪市でも真っ先に実現させましょう」との催しの意義を強調。参加者には「二十人学級実現を求める請願書」の署名用紙が配られた。舞台には自称「お気楽シンガー」の西沢和弥さんが初登場。巧みなギター伴奏で、「犬の散歩」「かにはさ」「ユニットバス」など日常の光景をユーモラスに描写した歌の数々を、演歌風、沖縄民謡風、コミックソング風など自在なバリエーションで披露し、会場を笑いで包んだ。ライブの前後にはフリーマーケットやバザー、抽選会が行われた。



労働者と地域の一体感が印象的だった「交流秋まつり」

家族的な雰囲気で

「みなとふれあいまつり」

「子供・障害者・高齢者や学童保育所、障害者作業所、こども会、教職員組合などがバザー、フリーマーケット、屋台、遊びコーナーなどを並べ、呼び込みに声を枯らしていました。

よりよい地域作りという共通の目標に基づく家族的な雰囲気が印象的でした。

家族的雰囲気が印象的だった「みなとふれあいまつり」

お気楽シンガー西沢和弥さんも先生たちの運動を応援した「港のつどい」

地域短信

■先生の組合が恒例イベント「広げよう仲間の輪を」「子供の笑顔あふれる学校を」「守ろう憲法九条と平和を」を合言葉に毎年開かれている「港のつどい」が今年も十月五日夜、港区民センターで催された。四十二回目。主催は大阪市学校職員組合港支部（港・西・大正区の幼・小・中教職員の組合）。あいさつに立った開催一支部長（弁天在住、大正区の中学校勤務）は「良い文化に触れて子どもや教育のことを語り合いましょう」「少人数学級はみんなの願い、三十人学級を大阪市でも真っ先に実現させましょう」との催しの意義を強調。参加者には「二十人学級実現を求める請願書」の署名用紙が配られた。舞台には自称「お気楽シンガー」の西沢和弥さんが初登場。巧みなギター伴奏で、「犬の散歩」「かにはさ」「ユニットバス」など日常の光景をユーモラスに描写した歌の数々を、演歌風、沖縄民謡風、コミックソング風など自在なバリエーションで披露し、会場を笑いで包んだ。ライブの前後にはフリーマーケットやバザー、抽選会が行われた。

パワフルに街起こし

「ゆうなぎ鉄腕まつり」

「パワー競技で街起こし」をエ十月十六日、夕凪の食鮮館カー公前で「ゆうなぎ鉄腕まつり」が開催され、綱引きとアームレスリングに区民の歓声が響きました。幸運機器協同組合（木村武二理事長）と夕凪中央商店会（大江正夫会長）主催。

力勝負に拍手と歓声が絶えなかった「ゆうなぎ鉄腕まつり」＝（写真は綱引き小学生の部で優勝したデラックスゴンチャーズ）

◆一進一退の引き合い

綱引きは小学生の部には十一チーム（各四人）が出場、決勝ではデラックスゴンチャーズ（二先小五年男）が三連勝（同六年女）との一進一退の引き合いを制し優勝。メンバーの山本権次君、宮平悠二君、小柳雄太君、八木拓己君はソフトボールやドッジボールもずるスポーツ少年。決勝は一時形勢が悪くなりましたが頑張りました。賞品の商品券で「お菓子を買います」。

大勢の参加で大会を盛り上げた中村整骨院スタッフの綱引きでの奮闘

同大人の部には十一チームが出場、決勝では大阪府立東住吉高校ソフトボール部OBでは八幡屋（平成九年一月）以来の優勝を飾りました。

◆どこにも負けぬ練習

イチョークラブは八幡屋公園の自慢住民を主体に結成十数年。応援の住民が盛んな声援で大会を盛り上げました。大会を通じては、大川主将を中心によく声をかけ合い、本格派の竹島・黒木両投手が堅い守備に支えられて二試合で一失点と好投。攻撃面ではシュアな打撃に定評のある集中力が光りました。上鶴二塁手は「決勝では打てなかったが、これで全員が集中して戦った結果です」と一丸の優勝を強調していました。

閉会式では秋田藤氏大会本部長、寺尾庄蔵副委員長が、B組優勝を飾り、笑顔のスマイルズ（大会役員含む）＝㊦

イチョーが10度目V

ふれあいソフト 12チームが熱戦

「地域ふれあいソフトボール大会」が十月二十四日、八幡屋公園多目的広場で開催され、晴れの空の下、十二チームが熱戦を繰り広げました。親睦を目的に毎年春と秋に開かれ、二十七回目。

A組（実力上位六チーム）ではイチョークラブとエンゼルスが決勝で激突。イチョーは二回、富士井の右中間を破る先制の二点二塁打などで一挙五点。守っては竹島投手がエンゼルスの強力打線を一点に抑え、八対一で決勝。イチョーは三